

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 5日

事業所名 Linkerミーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		定員人数が十分に活動できるスペースを確保しており、さらに個別で学習できるスペースも用意している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置基準は常勤で満たしており、さらに必要な場合はパート職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		事業所は1階部分になり、入り口にはスロープが設置されている。室内は段差もなく開放的である。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の業務内容を事業所内で振り返るとともに、朝礼やSNSを用いて、全事業所で共有している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表よりご意見をいただいた場合は、すぐに全職員と共有し、対応するようにしている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		適宜、SNS上で発信している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		内部の評価を徹底している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		対面の研修だけでなく、オンラインで参加できるようにしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご家庭や学校での様子を細かく聞き取り、本質的にどのような支援が必要なのかということ、計画に反映させている。	

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを使って判断するのではなく、実際の生活における行動を細かく聞き取り把握することを重視している。	今後、ある程度の標準化されたアセスメントツールを考案したい。児童の発達の指標になるようなものができればと考えている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		スタッフ全員で考え実施している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		一つの目標を掲げてそれに至るステップを細かく分類して実施している。	来年度のプログラムに関しては、年度初めに発表する形になっている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日に行事を行ったり、長期休暇にしか出来ないイベントなども盛り込んでいる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別で認知面の課題に取り組み、集団ではソーシャルスキルの課題に取り組みなど、それぞれの児童に必要な活動を組み合わせしており、計画にも反映させている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事業所内で確認を行うとともに、朝礼で全事業所に必要事項を共有している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		時間をとることは難しいが、事業所内で簡単な振り返りを行い、SNS上や翌日の朝礼で全事業所にも共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の記録をデータで残しており、それを元に朝礼などで振り返り、検討を行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングは行っているが、さらに日々の状況の変化を計画に反映出来たら尚良い。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		参加できる日程で会議を組んでもらっている。日々の児童の様子を把握している者が参加、情報提供している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		予定表やSNSで保護者様から随時情報をいただいております。必要な場合は学校にも連絡をとっている。	長期休暇前や各行事前など、イレギュラーな時期に抜けが出ないように連絡を徹底していく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/	/	/
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		以前の関係機関から詳しい情報を聞き取ることは難しいので、保護者様からいただく情報と、児童の現状の様子を合わせて、聞き取り観察を細かく行い、現在の児童に対して適切な支援ができるようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			当事業所での情報は詳細にお渡しするようにしており、必要であれば直接施設とも連絡をとるようにしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			西宮の事業所が集まる連絡協議会に参加し、情報を共有している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		守秘義務の問題で、行っていない。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			西宮の連絡協議会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			日々の様子は連絡帳でやり取りを行っており、さらに気になる点は送迎時や電話連絡でその都度直接お話するようにしている。	変化が見られた際にはその都度ご連絡するようにしているが、全てのご家庭と定期的に連絡をとる等、より密に保護者様と連携を取れるようにしていきたい。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			必要なご家庭に関しては、実際のご家庭の状況に合わせた対応を個別でお伝えしている。	相談会やセミナー等を実施し、保護者様同士が繋がる場を増やしたい。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始時にご説明させていただいており、運営規程は随時壁に貼り出している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		就学児はあまりできていないので、今後増やしていけるように準備していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご意見をいただいた際には、すぐに全職員と共有・対応し、改善点をご報告している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		保護者様専用のSNSで、適宜必要な情報を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○		写真が見たいご家庭のために、保護者様専用のSNSでのみ閲覧できるようにしている。掲載を控えたいご家庭は事前にチェックしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	守秘義務の問題で、行っていない。		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			保護者様にも定期的に発信し、定着させていく必要がある。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		曜日ごとに来所児童が異なるため、定期的に訓練週間を設けて行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修だけでなく、日々の振り返りの中で、虐待とはどのようなことかということ念頭において、対応を検討している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		基本的に身体拘束は行わない。タイムアウトというアプローチが必要な児童がいる場合は、保護者様に詳細説明の上、承諾をいただいで行うこともあるが、その際には計画にも記載するよう定めている。	現状として、必要な児童は当事業所にいないが、そのようなことも想定した環境設定や対応の仕方を考えておく必要がある。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		クラウド内でいつでも確認できるようにしており、さらに朝礼で全事業所に共有している。	